

大長見ダムだより

第1号(平成21年度)
平成21年6月
浜田県土整備事務所

洪水期到来

日頃から大長見ダムの管理に関しましてご協力をいただきましてありがとうございます。

大長見ダムでは、日頃より設備の保守点検を実施し、いざというときに備えております。

また、5月27日には「ダム管理演習」を実施しました。各関係機関との情報伝達訓練や警報活動の演習等を行い、梅雨入りに準備しました。



こんな時に警報活動を実施します

※ 警報活動とは、ダムから各警報局へのマイク放送、サイレン吹鳴及び警報車からのマイク放送のことをいいます。

- (1) 急激な水位上昇が予測される時(ダム下流で30分で30cm以上の急激な水位上昇)
- (2) 非常用洪水吐から越流すると予想される時

お願い

ダムからの放送やサイレンが聞こえた時は川に近づかないでください。また、雨が降りそうなどきは、気象情報に十分注意してください。

非常用洪水吐(2)はここを越流する時に警報活動を実施します。



常用洪水吐(最大760トン放流)

島根県浜田県土整備事務所

〒697-0041 島根県浜田市片庭町254

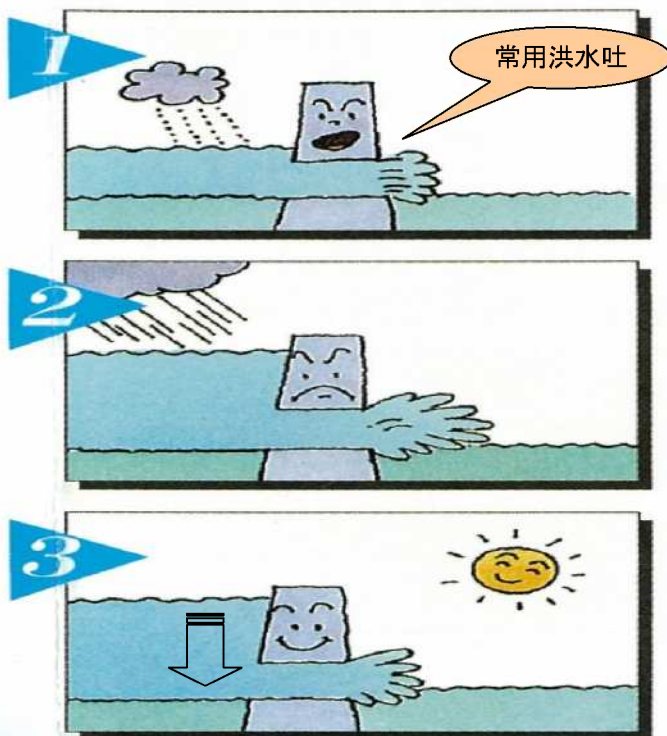
TEL. 0855-29-5674



シマネスク・島根

ゲートレスダムの洪水調節とは？

ゲートレスダムとは洪水調節を行うためのゲートの無い自然調節型ダムのことです。従って人為的な操作により放流量を調節することはできません。
 それでは、どのようにして洪水調節を調節するのでしょうか？



大雨が降ってきて、たくさんの水がダムに押し寄せてきました。常用洪水吐から少しずつ放流が始まります。大長見ダムの常用洪水吐は最大780トンの水を流すことができます。

さらにダムに流れ込む水の量が増え常用洪水吐の能力を超えると、ダムの上流にたくさんの水を貯め込みます。大長見ダムでは最大で約1,880万トンもの水を貯めることができます。(このときも常用洪水吐からは最大780トン放流が続きます。)

雨が小降りとなり、ダムに流れ込む水の量が常用洪水吐から放流する水の量より少なくなると、ダムの水位がを少しずつ下がりはじめます。さらに水位が常用洪水吐付近まで下がり、次の大雨に備えます。

※ 100年に1度あるかないかの大雨では、ダムの貯水能力を超えてしまいますので、上流で降った雨がそのまま下流に流れ、洪水を起こす可能性があります。

「ダム」はこんなはたらきをします

1. 洪水の調節

ダム建設地点で1/100の確率で起きる洪水の水量、毎秒1,090m³のうち毎秒550m³の調節を行い、周布川沿いの水害を防ぎます。

〈大雨のとき〉



2. 流水の正常な機能の維持

以前から使っていた用水の補給や動植物の生息場所、水質、景観を守る等、川の機能を維持するために必要な水をダムから流します。

〈水不足のとき〉



3. 水道用水の供給

将来的な浜田市の水道用水として、1日最大5,400m³の水を供給できる容量を確保しています。
 ※現在、水道施設はありません。

〈水道水の確保〉

